

2020年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2019年7月30日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

1. 決算概要[代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,389	1,408	+19	+1%
税引前四半期利益	352	370	+18	+5%
四半期利益	285	301	+17	+6%
cf. 通常の営業活動 からの利益	353	385	+31	+9%

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

3

- 売上収益は 1,408億円、前年同期比 19 億円(+1%)の増収
- 税引前四半期利益は 370億円、前年同期比 18億円 (+5%) の増益
- 四半期利益は 301億円で、前年同期比 17億円の (+6%) の増益

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,430	1,408	-22	+41	+3%
税引前四半期利益	372	370	-1	+20	+6%
四半期利益	302	301	-1	+17	+6%

主要通貨	(A)Q1 FY18 レート	(B)Q1 FY19 レート	変動率
US\$	¥109.53	¥109.67	-0.1%(円安)
EURO	¥129.01	¥122.87	+4.8%(円高)
BAHT	¥3.39	¥3.47	-2.4%(円安)

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

- 今四半期はユーロが円高に大きく振れており、その影響を受けている
- 仮に前年同期と為替レートが同じであったとすると、売上収益は実質ベースで 41億円 (+3%)
- 一方で、利益に対して為替の影響はほとんどなかった
- 税引前四半期利益に対する為替換算の影響は-1億円であり、実質の増益は20億円(+6%)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY
収益合計	1,399	1,424	+25
費用合計	1,047	1,054	+7
減価償却費	68	84	+15
その他の費用	301	286	-15
税引前四半期利益	352	370	+18

新リース会計基準の適用などにより減価償却費が増加した一方で、その他の費用が減少した。

- 新リース会計基準の適用により、減価償却とその他の費用で入り繰りがあった
- リース資産が増えたことに伴う減価償却費の増加があった一方で、オフィスや店舗の家賃をはじめとする「その他の費用」が減少した
- また、影響はあまり大きくはないが、為替差損が18億円と前期と比べて14億円増えている

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	913	938	+25	+3%
税引前四半期利益	174	173	-1	-1%
cf.通常の営業活動 からの利益	178	182	+3	+2%
cf.通常の営業活動 からの利益率	19.5%	19.4%	-0.1pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

- ライフケア事業の売上収益は 938億円、前年同期比25億円の増収
- セグメント利益（税引前利益）は 173億円、前年同期比1億円の減益となった

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q1 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	958	938	-20	+45	+5%
税引前四半期利益	173	173	-0	-1	-1%
cf.通常の営業活動 からの利益	182	182	-0	+4	+2%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

7

- ライフケア事業においては、主にユーロ安により-20億円の影響があり、実質的な増収額は45億円であった
- セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的には1億円の減益

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	466	460	-6	-1%
税引前四半期利益	190	205	+14	+8%
cf.通常の営業活動 からの利益	188	212	+24	+13%
cf.通常の営業活動 からの利益率	40.3%	46.0%	+5.7pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

- 情報・通信事業の売上収益は 460億円、前年同期比6億円の減収
- セグメント利益（税引前利益）は205億円、前年同期から14億円の増益となった

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q1 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	461	460	-2	-4	-1%
税引前四半期利益	206	205	-1	+15	+8%
cf.通常の営業活動 からの利益	212	212	-1	+24	+13%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

9

- 情報・通信事業における為替換算の影響はほとんどなかった(-2億円)。実質的には4億円の減収であった
- セグメント利益(税引前利益)は、為替換算の影響を除くと、実質的には15億円の増益

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ				
(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	696	704	+8	+1%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	719	704	+23	+3%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

- ヘルスケア関連製品（メガネレンズ、コンタクトレンズ）の売上収益は704億円、前年同期比で8億円（+1%）の増収
- メガネレンズにおいてユーロ安の影響を受けており、為替換算の影響を除いた実質的な増収額は23億円（+3%）

サブセグメント別業績

メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ				
(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	217	233	+17	+8%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	239	233	+22	+10%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

11

- メディカル関連製品（内視鏡、眼内レンズ等）の売上収益は233億円、前年同期比で17億円（+8%）の増収
- 為替換算の影響を除いた実質的には22億円（+10%）の伸びとなった
- 眼内レンズは1月クロージングした買収の効果が大幅増収、Like-for-Likeでは5%の増収であった
- 内視鏡は2%の増収と、成長が鈍化したようにも見えるが、「受注は取れているものの出荷待ち状態」の影響もあり、実質的には成長率は1桁半ば程度と見ている

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	354	370	+16	+4%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	370	370	+16	+5%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

12

- エレクトロニクス関連製品（半導体、液晶関連製品及び HDD 用ガラス基板）の売上収益は370億円、前年同期比で16億円（+4%）の増収
- 為替換算の影響を除いた実質的な増収額は16億円（+5%）
- EUV用のブランクス売上が倍増した
- HDD基板は3.5"の立ち上がりがスローだったことにより-11%

サブセグメント別業績

映像関連製品 カメラレンズほか				
(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	111	90	-22	-20%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	91	90	-20	-18%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

- 映像関連製品の売上収益は90億円、前年同期比で22億円の減収（-20%）
- 当該製品においては、為替換算の影響はほとんどなかった
- なお、撤退した事業を除いたLike-for-Likeベースでは11%の減収

貸借対照表

(億円)	Q4 FY18	Q1 FY19	QoQ
非流動資産	2,558	2,764	+206
流動資産	5,081	4,868	-213
資本	6,277	6,113	-164
非流動負債	244	334	+90
流動負債	1,118	1,185	+67
合計	7,639	7,632	-7

1 新リース会計基準の適用及び新規設備投資等による固定資産の増加 +249億円

2 自社株買いにより自己株式が増加 (-186億円)

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

14

- 貸借対照表においては、非流動資産が206億円増加。これは主に、新リース会計基準の適用や新規の設備投資により有形固定資産が249億円増加したため
- これに対応する形で、長期/短期負債が増加している

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY
営業活動によるCF	258	354	+97
投資活動によるCF	-322	-109	+213
財務活動によるCF	-169	-377	-208
現金及び現金同等物 期末残高	2,262	2,738	+476

1 東芝メモリへ出資（270億円）した前期と比べ支出が減少

2 自社株買い（191億円）により支出が増加*

*2019年10月末までに上限600億円の自社株買いを実施予定

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

15

- キャッシュフローにおいても、新リース会計の適用が影響し、営業キャッシュフローと投資キャッシュフローの間で入り繰りがあった
- 財務活動によるキャッシュアウトが208億円増加。前年同期は実施しなかった自社株買いを行ったことによる191億円の支出があったため。

2020年3月期 Q2予測

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	増減	増減率
売上収益	1,420	1,432	+12	+1%
税引前四半期利益	384	370	-15	-4%
四半期純利益	312	299	-14	-4%

- ✓ ライフケア事業は眼内レンズでのM&A効果やコンタクトレンズの好調が続くことなどにより前期比増収を見込む。
- ✓ 情報・通信事業はカメラレンズなどの減収を見込むものの、半導体ブランクスがEUV用途にけん引され拡大、前年同期並みの売上を見込む。

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

16

- 中間期としては売上収益2,840億円、税引前利益740億円を見込んでいる
- 為替レート的前提はUSDが105円、EUROが120円と、円高が進む前提としている

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

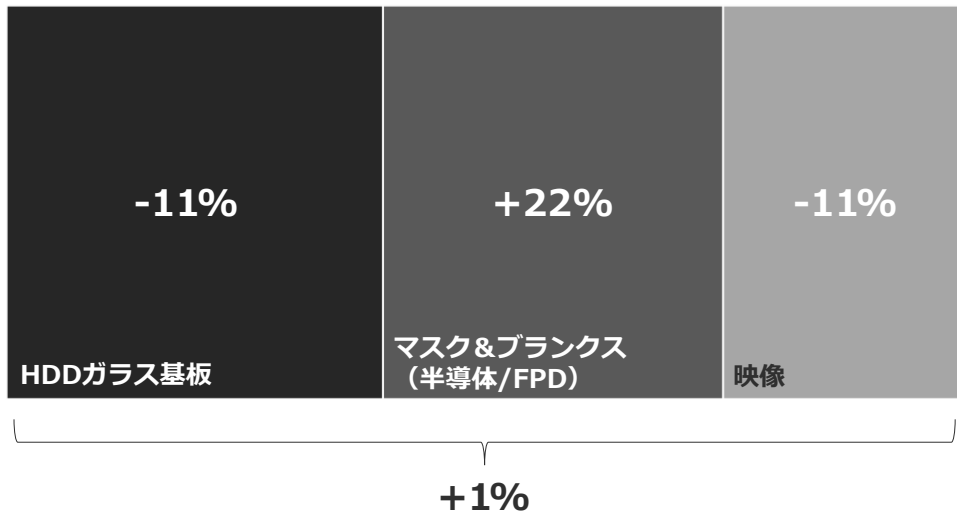
3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)

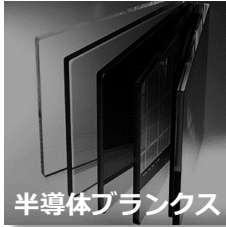


© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

18

- 情報・通信事業は、為替換算影響ならびに非継続の製品（レンズユニット）を加味すると、1%の増収、13%の増益だった
- 利益率についても前期から5pt UPの46%となった
- 製品別の売上増減率は、HDDガラス基板が-11%、マスク&ブランクが+23%、映像は-11%だった。

製品別概況



足元

オプティカルが7nmのテープアウトにけん引され成長。EUVは売上が倍増、全体の29%に

今後

EUV露光機の順調な増加や活発な開発を背景に引き続きEUVブランクスの成長を見込む



足元

FPDマスクの中国市場での販売が好調に推移。半導体用途は外販マスク市場の縮小により減収

今後

今後さらなる成長が予測される中国市場におけるビジネス拡大を図っていく

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

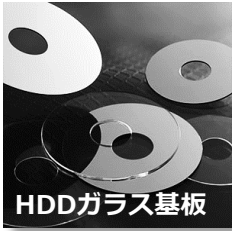
【半導体ブランク】

- ほぼ全カテゴリーが伸びた。中でもハイエンドは前期比で30%以上の成長となった
- EUV用途の売上は倍増し、ブランク売上に占める比率が29%に
- EUV露光機メーカーは直近の四半期で7台の売上、年間30台の計画についても計画通りで進んでおり、露光機の出荷に伴う需要拡大が期待できる
- EUVの7nmでの量産が始まりつつあり、5nmや3nmといった次世代ノードの開発も控えている
- 最終市場が弱含みなオプティカル（DUV）において強い伸びがある理由としては、ブランクは最終市場の数よりも、テープアウト数/設計数の動向に左右されるため
- 直近は7nmのノードにおいてEUVの開発用途と、バックアップとしてのオプティカルの両方から需要があったため強い成長を達成した
- 今後も半導体メーカーからの強い需要に質・量の両面においてしっかりと応えて供給していくことが肝となる

【FPD/LSIマスク】

- 日本/台湾/韓国での減収となったものの、中国市場での売上が倍増したためFPDマスクは5%程度の成長
- 今後も中国市場の高精細OLED向けマスクの需要を積極的に取りに行く

製品別概況

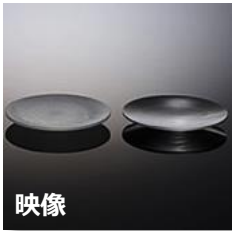


足元

データセンター需要の停滞により3.5"の成長がやや鈍化。2.5"の縮小を補えず全体で減収

今後

データセンター向け3.5"はQ2より徐々に需要回復を見込む（兆しあり）



足元

従来より減少傾向にあったコンデジに加え、交換レンズも製品市場が停滞し、減収

今後

継続的に新規用途/販売チャネルの開拓を行う

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

20

【HDDガラス基板】

- 前四半期までは「3.5"が2.5"の縮小を補って前年並み」というモメンタムであったが、今回はそのバランスが崩れ-11%
- 2.5"の縮小は-20%あまりと想定範囲内であり、どちらかと言うと3.5"が想定より伸びなかったため
- 3.5"は初めてQoQでマイナス成長となった
- 2.5"はゲーム機のSSD化なども見えており、SSDへの置き換えが進むため今後も20%以上のマイナスを想定している
- データセンターの投資が弱く、需要が落ちているが、足元では徐々に受注数が伸びるなど回復の兆しが見えてきている
- ただ、短期的なデータセンターの動向よりも大事なのは、HDDメーカー残り2社がガラス基板を採用することによる成長
- これらのメーカーにおいても18TB~20TB製品のロードマップにガラス基板搭載機種がプロットされ、開発活動が始まっており、成長シナリオに変化はない

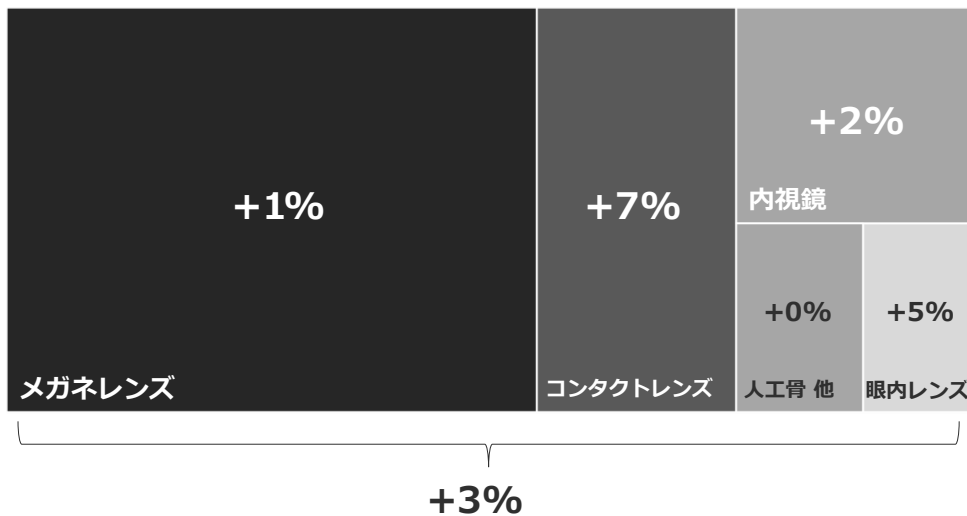
【映像】

- 縮小が続いたコンデジ市場に加え、交換レンズがマイナスとなった
- 車載カメラ用途だけが成長
- 写真撮影用途に依存せず、新たなカテゴリの開拓を進めていく

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

➤ 製品ごとの売上増減率については、メガネレンズが+1%、コンタクトレンズが+7%、内視鏡が+2%、眼内レンズが+5%であった

製品別概況



足元

チェーン小売への拡大を図るなか、キャパ不足が続き、微増収にとどまった

今後

本年11月にベトナム第2工場竣工
北米を中心にチェーン攻略を進める



足元

集客増や顧客単価UPにより増収。中国・九州の小売を買収。期末店舗数 315店（新規1/閉店1 M&A込）

今後

継続的に集客増と単価UPを図っていく

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

23

【メガネレンズ】

- チェーン小売への拡大を図るなか、生産キャパシティ不足により営業活動にブレーキがかかり、微増収にとどまった
- ブラジルにおいてオペレーショナルな問題による機会損失もあった
- また、欧州における酷暑や日本での長期的な雨も販売に影響した
- Q2もシチュエーションはあまり変わらないが、下期以降はキャパシティも増加し、事業としてアクセルを踏んでいけるだろう

【コンタクトレンズ】

- 中国・九州において6店舗展開する小売を買収した
- スマホなどの電子機器の影響もあり、若年層の近視が増えているほか、高年齢層のコンタクトレンズ装用率が上がっており、市場自体が伸びている
- 今後も単価、数量ともに伸ばしていけるだろう

製品別概況



足元

中国の代理店での余剰在庫水準が減少し、同市場での販売が再開。全体で増収に転じた

今後

年度末までに中国での余剰在庫を解消を目指す。買収した会社の統合プロセスを推進



足元

新製品の発売などによりアジアや欧州での販売が好調に推移したものの、米州は納入時期のズレなどにより減収

今後

新製品を継続的に投入し、売上成長を加速

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

24

【眼内レンズ】

- 直販は伸びているが、代理店チャネルは足踏み
- 中国の代理店での余剰在庫水準が減少し、回復しつつあるが代理店のマネジメントの強化がまだまだ必要
- 直販のみでは営業効率もよくなるだけでなく、代理店やOEMのチャネルの強化が課題
- 本年1月に買収したMid Labs/Fritz RuckについてはPMIを進め、販売シナジーの発揮を図っていく

【内視鏡】

- 米州において、共同購買組織が全部品を揃えないと納品できないため、受注ベースでは好調だったものの出荷ができず売上成長率は+2%にとどまった
- 下期以降は新製品を控えており、明るい方向に進むだろう

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括[代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

【3ヶ月を振り返ってのトピック】

- 半導体ブランクス：オプティカル（DUV）露光において、3nmの開発が始まった
- FPDマスク：中国のOLED市場の存在感が急速に増した
- HDD基板：顧客が14TB機で苦戦したが、16TB機のローンチが他社を先行する見通し
- メガネレンズ：競合が欧州の有力チェーンを買収との報道。買収が成立すれば、他のチェーン店にとって競合となるため、差し引きでプラスの効果があるのでは？と見ている
- 眼内レンズ：競合の組織体制が整ってきたため、これまで以上に本腰を入れて取り組む次第
- その他：ESGコミッティが立ち上がった
- 総括：Q1の成長率は鈍化したように見えるが、下期に向けて成長が回復すると見ており、悲観する必要はない

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

質疑応答内容-1

Q

[半導体ブランクス]
日韓関係、競争環境など、最新の状況についてアップデートして欲しい

A

ブランクスは輸出手続き変更の対象外。また、当社はシンガポール工場からも供給可能。一部顧客が在庫の早期確保を行う可能性はあるが、競争環境においては数量と品質面で顧客需要を満たしていくことが重要。

Q

[HDDガラス基板]
中国のデータセンター市場において特需が発生しているが、当社への影響は？

A

7月以降、当社のHDD基盤の受注が回復傾向にあるが、当社は最終製品ではなく部材メーカーであるため中国からの需要が要因となっているかは分からない。

中東やアフリカ、インドなどでデータセンター投資が必要となっており、これが中国での需要増加につながっている可能性はある。

質疑応答内容-2

Q

[ライフケア事業]

利益率についてQ1は製品別にはどのように評価しているか？また今後はどの製品の収益性を向上させるのか？

A

前提としてQ1はライフケアが弱い四半期。内視鏡は、出荷時期が次の四半期にずれたことで結果として利益率が伸び悩んだ。また、為替面でメガネレンズ、内視鏡でユーロ安のマイナス影響があったものの、全体としては想定並みであった。下期はメガネレンズで収益性の高い製品の増産が始まってくるため、収益性向上に寄与するだろう。

Q

[情報・通信事業]

今年の下期以降、減価償却費の増加による収益性低下を防ぐための打ち手を考えているとの発言が前回の決算説明会であったが、現況は？

A

下期以降、増産投資により比較的収益性の高い製品郡の売上が増加する見込みであり、収益性に大きな変化はないだろう。一方で縮小を見込んでいる製品があるものの、償却の大部分が既に終了しているので売上減による収益性への影響は少なく、情報・通信事業全体としての収益構造は維持できそう。

情報・通信事業のQ1の利益率(46%)は一過性の要因もあり、通常より高い状況だが、40%以上は維持していきたい。

質疑応答内容-3

Q

[ライフケア事業]
オペレーショナルな問題の改善により、収益性は改善する見込みか？

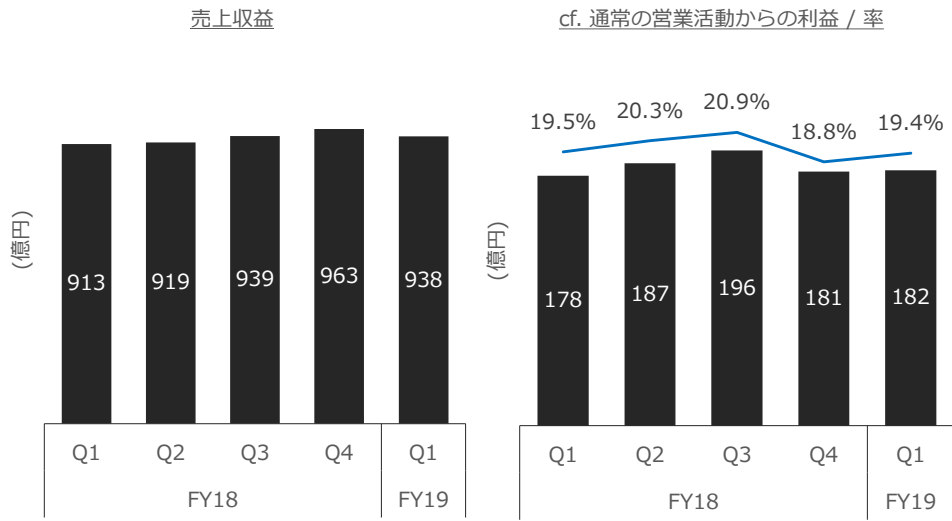
A

オペレーション上の問題解決に向け、既に手は打っている。

なお、ライフケア事業は依然としてマーケットシェアを獲得していくフェーズであり先行投資は行っていくが、事業効率を上げていくことで固定費を吸収することで、収益性は徐々に上がっていくだろう。

Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

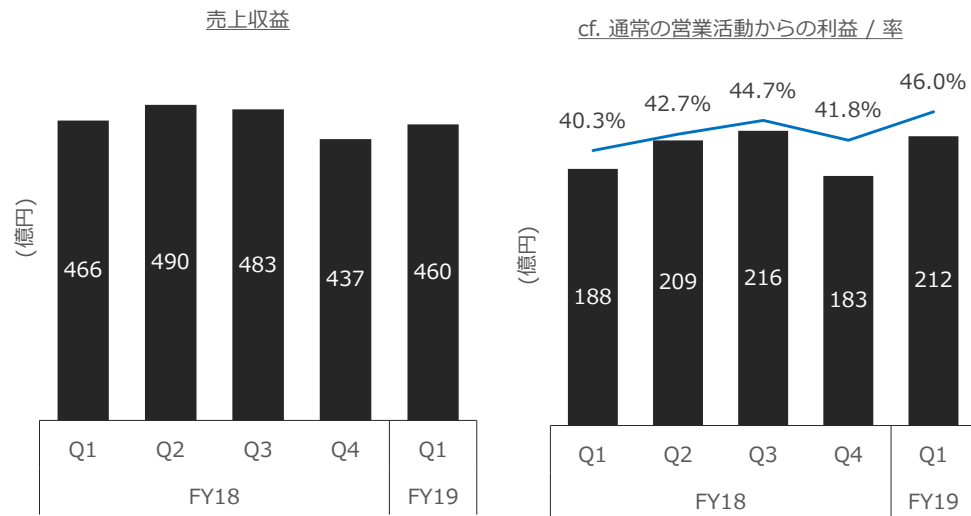


*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

31

情報・通信事業 QoQ推移



*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

32

Topics

ESGコミッティが始動

- ✓ HOYAとしては初めてのESG部門「ESGコミッティ」を組成、2019年8月より活動を開始予定。
- ✓ HOYAグループのESG活動やこれに係る開示の強化に努めていく。

暗所視支援眼鏡が天草市で全国初の補助金対象に

- ✓ 夜盲症により暗所で物が見えにくい方向けの暗所視支援眼鏡「HOYA MW10 HiKARI」を2018年春に発売。
- ✓ 2019年7月より、全国で初めて熊本県天草市にて福祉用具の「日常生活用具」として補助金の支給対象となり、メーカー希望小売価格395,000円（消費税別）を、1割負担の39,500円（消費税別）で購入可能に。
- ✓ 今後も他の自治体等への横展開を図る。



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q3, Q4, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。％は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。